

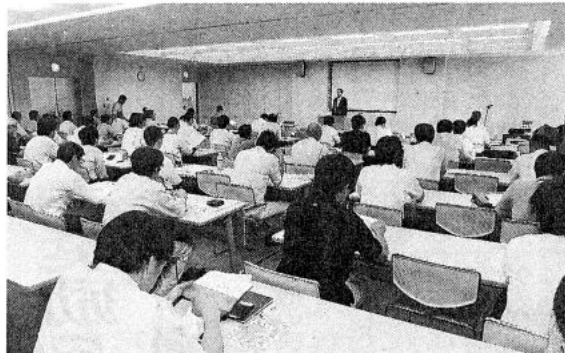
社会的地位向上へ地域密着活動を

福井県コンクリート診断士会

定期総会開く

福井県コンクリート診断士会(石川裕夏会長)の15年度定期総会は6月

30日、福井市宝永の県国際交流会館で開かれ、まずはコンクリート診断士の



今年度事業計画などを了承した定期総会

の社会的地位の向上を目指し、県道路メンテナンス協議との協働など地域密着型の活動を積極展開するとした今年度事業計画などを了承した。

川会長は設

立12年目を迎え、正会員が設立時の13人から109人まで増え、東京、北海道に次ぐ3番目の組織規模に拡大したことに感謝。「地域に根差した活動を通じて信頼のネットワークを構築し、診断士の社会的地位を確固たるものにした。それには我々のスキルを磨き上げ、価値を高めることが必要」と述べ、さらなる切磋琢磨を強調した。

冒頭、石川会長は設

「点検業務」のみだったことに対しては、「低調な結果に終わった」とし、引き続き上層団体の日本コンクリート診断士会や日本コンクリート工学会(JCI)を通じて、同省に登録分野拡大を働き掛けるとした。

診断士の登録が「橋梁(コンクリート橋)」の

方針。総会後は、立命館大学理工学部環境システム工学科の岡本享久特任教授が「コンクリートのさらなる可能性とあるべき姿」と題して講演、会員らは熱心に聴講した。